



内科・胃腸科・呼吸器科・放射線科

# ゆとりが丘クリニック 便り

〒020-0638 岩手県滝沢市土沢541番地

TEL 019-699-1122 / FAX 019-699-1121

平成31年4月25日(2019) 第0071号



## 『ヒポクラテスのことば』

院長メモ

“おはようございます。”こちらに背を向けて仕事をしている某研修医。今日も返事がない。私は水曜日をクリニックの休診日として、某病院放射線科で各種のレポート作成の仕事をさせて頂いている。この研修医も、読影室に入出するようになって数年になるはずだが、会話はおろか挨拶も交わさない状態が続き、私の水曜日は暗澹たる気持ちでスタートするのである。

30年近く前の話になるが、私は大学からの長期出張で、都立駒込病院の放射線診断部に単身赴任していたことがある。臨床経験も浅い私にとって、ほとんどが初めての経験であった。午前中は、血管内治療を含む血管造影検査とCT。午後は超音波検査と核医学検査、その合間を縫うように各臨床科とのカンファレンスが続き、週一度の文献抄読会と病理標本切り出し検討会。一般撮影を含むすべての画像の読影および学会の準備は、そのすべてが終わってからのことで、浅学の私は仕事が深夜に及び、最後には検査室のベッドに泊り込む生活がほぼ2年続いた。

私も自分なりにがんばったつもりであったが、驚いたのは当時放射線診断部長であった鈴木謙三先生が、私の作成したつたないレポートを、一枚一枚シャーカステンの前で私に口頭試問をしながら赤ペンで訂正して下さることだった。管理職のお忙しい身でありながら、年間8,000枚近い私のレポートが先生の赤ペンで埋められていった。

また、インターベンションや超音波等のいわゆる直接の指導でしか身に付かない技術は、まさに手を取りながらの御指導を受けた。これらは、全国の大学から集まったすべての若い医師に対して行なわれていた。

岩手に帰る日が近づいたある日、私は先生に尋ねてみた。

「なぜ先生は、私のようにすぐ自分の大学の帰ってしまうような者にまで、こんなに親切に指導されるのですか？」今にしてみれば失礼なことを聞いたものである。

先生は即座に「高橋先生はヒポクラテスの言葉をご存知ですか？」

「内容はまったく知りません。」と答えた私に先生は、

「その中に“医師たる者は自分が持っている知識、技術のすべてを後輩医師に見返りを期待せず教え伝えなければならない。”という一節がありますよ。」とニコニコしながら答えられた。

私はこんなことを真顔でおっしゃる先生のお話を黙って拝聴するしかなかったが、先生の私達後輩の医師に対する想いが、若かった私にも少し分かったような気がした。

“おはようございます。”今日も反応なし。

“挨拶もまともに出来ないのか？まあ教えられるような新しい知識もないけどさ・・・”と不機嫌な気持ちになる私に“高橋先生はヒポクラテスの言葉をご存知ですか？”鈴木先生の穏やかな声が聞こえたような気がした。

(岩手県立中央病院 病院誌に寄稿)

# 5月休診・診療時間のお知らせ

2019年5月

(日曜・水曜・祭日は休診日です)

★ 5月 5日(日) 休日救急当番医

★ 5月25日(土) 午後休診  
 郡市医師会長協議会  
 出席の為

## ゴールデンウィーク休診のお知らせ

4月27日(土)～5月6日(月)まで休診  
 となります。

※ 5月5日(日)は休日救急当番医の為診療いたします

日	月	火	水	木	金	土
4/28	4/29	4/30	①	②	③	④
5 休日当番医	⑥	7	8 午前検査外来	9	10	11
⑫	13	14	15 午前検査外来	16	17	18
⑰	20	21	⑳	23	24	25 ★
㉒	27	28	㉓	30	31	

○=休診日 ★=診療時間変更

※都合により変更になる事がございます。ご了承願います

## 海外から入ってくる感染症

渡航が日常の事になり、訪日外国人も増加して、海外から日本に感染症が持ち込まれる可能性が高まっています。マラリアやデング熱のように熱帯・亜熱帯諸国で発生している感染症だけでなく、欧州で麻しんが流行したり、アフリカにはコレラやエボラ出血熱が流行している国もあり、感染症を国内に侵入させないための対策はますます重要になっています。

## 検疫所の役割

検疫所では、国内に常在しない感染症を侵入させないために、入国者に対する体温チェックや健康相談などを行っています。また、空港や港湾に感染症を媒介する蚊やネズミが定着していないかを調査し、渡航者に対して海外の感染症の流行状況を知らせて注意を喚起しています。



## 最大の対策は予防 — 自分と社会を守る行動を

感染しても、帰国時にはまだ症状が出ていないこともあり、検疫所の対策だけでは感染症の侵入を完全に防ぐことはできません。マラリアやデング熱には虫よけ薬で蚊に刺されないようにし、チフスや中東呼吸器症候群(MERS)には殺菌や加熱が不十分な飲食物への注意も重要です。麻しんや風しんはワクチンで予防できます。

海外の情報はインターネットで入手でき、渡航者外来やトラベルクリニックも増えていますので、出発前に余裕をもって対策を行いましょう。それでも帰国後に感染症を疑う症状が出たら、すぐに医療機関に相談しましょう。

周囲の人に感染させるおそれがあるので、事前に電話で、①症状、②渡航先、③飲食歴、④動物との接触状況などを伝えて、医師の指示に従って受診しましょう。

### 感染症を侵入させない・広げないために

#### 海外へ出かける前に

渡航先の感染症情報や予防策を確認する\*  
 ● 蚊対策 ● 飲食の注意 ● ワクチン など

#### 帰国・入国するとき

発熱・下痢などの症状があれば、検疫所に申し出る

#### 帰国後に症状が出たら

医療機関にかかるときに、必要な情報を伝える  
 ● 渡航先 ● 旅程 ● 行動歴 ● 飲食歴 ● 動物との接触 など

※下記のホームページで、海外の感染症情報が得られます。Webで検索してください。

- FORTH/厚生労働省検疫所
- 国立感染症研究所感染症疫学センター
- 世界の医療事情(外務省)
- 日本渡航医学会
- 日本旅行医学会

海外からの感染症の侵入を水際で防ぐには

指導：東京検疫所東京空港検疫所支所 支所長 高倉 俊一  
 (日本医師会「日医ニュース」健康からNo.517より抜粋)

このマガジンは当クリニックホームページ(クリニック便り)でもご覧になれます。

ゆとりが丘クリニック

検索